～いよいよ可児市で始まります～
9月1日 レジ袋有料化がスタート

環境省によると、２００６年度の国内二酸化炭素排出量は、京都議定書で排出削減の基準年としている１９９０年に比べ、11・３％も増えているとのことです。排出量のうち最もシェアが大きいのは、工場などの産業部門ですが、基準年からは４・６パーセント減っています。増えているのは運輸部門（16・７％増）、商業・事業所などの業務部門（39・５％増）、家庭（30・０％増）、発電などのエネルギー転換（13・９％増）、廃棄物（48・９％増）などの部門です。

これまで、企業は経営効率を上げるために省エネに努め、結果として二酸化炭素の排出量も減っていますが、市民のライフスタイルはむしろエネルギー消費を増やす方向に進んでいるようです。

二酸化炭素の排出量を減らすには、技術的な問題だけでなく、市民の意識や生活様式からのアプローチが重要ではないでしょうか。

このため、岐阜県では県民・事業者・行政が一体となって、まず、レジ袋の削減により、市民の環境意識を高めるきっかけとなるよう、レジ袋の有料化を推進しています。

レジ袋を見直そう

現在、レジ袋は、ほとんどの店舗で、買い物をすると無料で配布されており、その多くがゴミとして処分されています。レジ袋１枚を８ｇとすると、可児市では年間に２００ｔになります。

レジ袋を１枚製造し、ゴミとして処分すると、約50ｇの二酸化炭素が排出されると言われています。

レジ袋は全国で年間約３００億枚使用されており、そのうち可児市では約２５００万枚使用されています。２５００万枚のレジ袋を製造・処分すると、１２５０ｔもの二酸化炭素が発生することになり、これは約９万本もの50年生スギ人工林が、１年間で吸収する二酸化炭素量に相当します。

私たちが、マイバッグやマイバスケットを使用することにより、今まで再利用されずに捨てられていた分のレジ袋の二酸化炭素の排出量とゴミを減らすことが出来ます。

レジ袋の有料化が始まります

レジ袋の削減に効果のある方法として、レジ袋の有料化があります。

県内では、すでに輪之内町や大垣市・各務原市などで始まっています。

可児市では、９月１日（月）から市内のショッピングセンターやスーパーマーケットの食料品部門やドラッグストアなどの協賛店（下表参照）で、レジ袋の有料化が始まります。（協賛店にはすでに有料化を実施している店舗や、別の方法でレジ袋の削減に取り組んでいる店舗もあります）

お買い物にはマイバッグやマイバスケットを利用して、ごみの減量化に努めましょう。

協定を締結しました

９月１日から一斉にレジ袋の有料化が始まる可茂地域の10市町村の協定締結式が、６月20日に行われました。締結式には古田岐阜県知事らが出席し、各協賛店と可児市自治連絡協議会（消費者団体代表）、市および県は「可児市レジ袋大幅削減（有料化）の取組みに関する協定」を締結しました。（県を除いた三者による協定もあります）

今後は未来の子どもたちに快適な自然環境を残すため、市民・事業者・行政が協働してレジ袋の大幅な削減に取り組みます。

レジ袋削減協賛店

現在、市内でレジ袋削減に協賛していただく店舗は、左の表のとおりです。

今後、新たに協賛していただけるお店があれば、ホームページなどで随時紹介していきます。

●問合先　環境課

可児市レジ袋削減協賛店一覧　（7月23日現在）〈順不同〉

店舗名		所在地
ＪＡめぐみの	とれったひろば	坂戸59
	味菜館	広見5-93
㈱スギ薬局	可児店	下恵土4135
生活協同組合コープぎふ	可児店　（※１）	下恵土2817-1
㈱西友	桜ケ丘店　（※２）	桜ケ丘6-74-3
中部薬品㈱	V-drug　西可児店	帷子新町3-54
	V-drug　広見店	広見1999-1
	V-drug　今渡店	今渡840-2
ハローフーヅ㈱	可児店	中恵土2359-490
㈱バロー	今渡店	今渡840-2
	西可児店	帷子新町3-39
	広見店	広見2024-3
㈱パレ	パレマルシェ　西可児店	帷子新町2-2
㈱フレッシュライフ	西可児店　（※２）	帷子新町3-52
	中恵土店　（※２）	中恵土1952
㈱三河屋	ビッグリブ　可児店	下恵土4116
ユニー㈱	可児店	中恵土2125-1
㈱ヨシヅヤ	Yストア　可児店	下恵土5750

（※１）すでにレジ袋有料化を実施している店舗。
（※２）レジ袋の有料化は行わず、別方法によりレジ袋の削減に取り組みます。